

# りんごかもしれない

原作・美術デザイン / ヨシタケシンスケ (ブロンズ新社刊)

脚色 / 西本勝毅 演出 / 柴崎喜彦 美術造形 / 坂上浩士 音楽 / 庄子智一 照明 / 芦辺 靖 音響効果 / 川名 武 振付 / 上田 亮 (音楽座ミュージカル)

目の前にあるこのりんご、もしかしたらりんごじゃないのかもしれない…。  
ひとつのりんごから始まる、少年の想像の世界。ヨシタケシンスケさんの大人気絵本が初の人形劇化!!



## 原作者 ヨシタケシンスケさんより ブークの『りんごかもしれない』演出会議より抜粋

小さい頃からブークさんがすごく好きで、何度もここ(ブーク人形劇場)にも来ていたんです。学生の頃はこういうの作人になりたいと思っていたんですよ。実は、なにがあるか分からないもので、こういう形で、ご一緒出来ることになり嬉しいです。

全体的に想像出来る余白のある舞台にしたいという話を聞いて、それはすごくいいと思いました。絵本を読んできてくれた子が、実際の舞台を観て、「あんなになるとは思わなかった」とか、「俺はあれ違うと思うな」とか思ってくれたら、そこにその子が自分でイメージしていたことと、実際に行われたことのイメージの余白が生まれるわけです。絵本に忠実にやってもらう必要はないのかなと。こういう風にあの本を解釈する人がいるんだという驚きが、この本のメッセージとつながると思うんです。



## 理解すること…空想のススメ 演出 柴崎喜彦

「りんご」というものは、少し不思議な雰囲気を感じたりする。旧約聖書のアダムとイブが口にした善悪を知る果実であったり、万有引力を発見したニュートンのきっかけにもなったものだったり。そのくせ小さな子でも簡単に描けるほど色や形はみんな良く知っている。そんなりんごがこのお話では止めどなく思いのままに変化するので。

「本物そっくりの字でなにを描いたら面白いか」ヨシタケさんが出演したテレビで語られていました。日々様々な面白さを探しているヨシタケさんの作品の魅力は、「あ!そうそう」と遊び心をくすぐってくれるところにあるのかなあとと思います。空想することは、楽しいという感情だけでなく、脳の発達に欠かせません。日常の転がっている当たり前のことを、当たり前として固い頭で決めつけずに、子どもたちと一緒に、果てしなく自由な空想世界を楽しんでいただけたらと思います。

かもしれない…って、断定はできないがその可能性があることの意味です。このお話の「りんご」は本当にりんごなのか、りんごとは何なのか。知っているようで本当はよく知らなかったり。相手を理解するということは、相手を認めるという意味でもあるのです。

空想から創り出された虚構だけではない、本当の意味を、感じていただけたらと思います。

## 開幕劇

# プー吉チビの ムジカ-Música-ブラボー

構成・演出 / 柴崎喜彦 美術 / 伊賀昌美  
音楽 / 吉川安志 音響効果 / 池田日明

プー吉チビの音遊び  
いろんなものから変な音!?  
一緒に音楽を遊んじゃお!



## 公演概要

小会場用作品 (ホール不可) 「りんごかもしれない」「プー吉チビのムジカ-Música-ブラボー」  
●上演時間 45分 ●編成 キャスト3名、スタッフ1名 ●運搬 中型ワゴン1台 / 1名  
●公共交通機関利用 3名 ●諸経費 (上演料 + 交通費 + 車両経費 + 宿泊費) + 宣伝材料